

キリストをめぐる光と闇

2025年4月6日

マルコの福音書 11章1節～14章11節

パッションウイーク（受難週）の前半（日曜日～水曜日） 別紙参照

- (1)日曜日 11・1～11 イエスのエルサレムへの勝利の入城
夜はベタニヤ泊
- (2)月曜日 11・12～14 ベタニヤ ⇒ エルサレム途上 いちじくの木を呪う
15～17 宮きよめ（神殿が商売の場所、祈りの家が強盗の巢に）
18 ユダヤ教の指導者たちが恐れからイエス殺害を企む
群衆はイエスに驚嘆していると知る
19 夕方ベタニヤに戻る
- (3)火曜日 11・20～25 呪ったいちじくの木がかれていた
信仰をもって祈れ
祈りの妨げとなる恨み事は赦しなさい
27～33 敵対するユダヤ教指導者たちの言い掛かり、対応
- 12・1～13・37 さまざまな人々に教えるイエス
敵対者へ ①ぶどう園の主人と邪悪なしもべ、主人の息子殺害
②カエサルへの納税
サドカイ人 ③死者の復活（結婚はない）
律法学者 ④第一の戒めと第二の戒め
大勢の群衆 ⑤キリストはダビデの主
⑥律法学者の偽善に注意せよ
弟子たち ⑦やもめのレプタ銅貨、精一杯の献金
⑧終末の預言（前兆、信者への迫害、全世界への福音
宣教、反キリストの出現、大患難期、
地上再臨によりさばきがなされる）
目を覚ましていよとの勧め
14・1～11 ⑨ナルドの香油を注いだ女性
⑩イエスを売ろうと画策するイスカリオテのユダ

I. 最後の週に入り乱れる光と闇

- (1)イエスを消そうとする敵対者（ユダヤ教の指導者たち）の言動が鮮明になる
- (2)イエスを歓迎した人々の心や態度が変わって行く
「ホサナ！」と歓喜して迎えた群衆 ⇒ 「十字架につけろ！」
- (3)弟子たちの従順 ⇒ 本当にはイエスの死と復活を理解していないことが判明
裏切り
憶病、不信仰
関心の中心は主ではなく、自分たち（だれが偉いか）
- (4)イエスの教えと御業に対する挑戦、反感、敵意、疑問、無理解
イエスを罠にかけ、陥れようと下心のある質問
自分の知識をひけらかすための質問

(5)イエスは弟子たちにだけ、終末のことを話された
ご自身の復活と昇天の後、福音宣教を担うのは彼らであった
今は分からなくても、聖霊降臨後には信じて伝道する者とされる

(6)神、イエスへの信仰を行いによって表明する
生活費すべてをささげたやもめ
イエスに香油を注いだ女性（マリア）ヨハネ 12:1~8

II. 光と闇（マリアとイスカリオテのユダ）

ベタニアのシモンの家
イエスのために用意された夕食の席
ラザロとマルタとマリアも集まった人々の中にいた

マリアが328グラムの純粋で高価なナルドの香油をイエスに注いだ（足に）
家は香油の香りで満たされた
ユダが叱責、横槍を入れた（もっともらしい理由＝貧民救済に使うべきだ）
彼は貧民への同情も配慮もなかった
自分の悪行（預かっていた金から盗んでいた）からくる良心の咎めを宥めるため

イエスの弁護：彼女の邪魔をしてはいけない
わたしに対して今しかできないことを自分で精一杯してくれた
もうすぐ、罪人の贖いのため十字架にかかって死ぬわたしの埋葬の
備えとして、香油を塗ってくれた
彼女のしたことは、福音が広がる所どこでも語り告げられる

ユダのその後の行動：祭司長たちの所に行って、イエスを引き渡す相談
金がもらえる約束
どのように引き渡すか、手段とタイミングをうかがう

III. 結び

(1)この世界は常に光と闇がせめぎあっている

(2)イエス・キリストの福音が宣べ伝えられるところで、特にその戦いは鮮烈になる

(3)イエス・キリストの救いの道を聴いた人々は何らかの応答をする
受け入れるか、拒否するか、さき延ばしにするか

(4)思い（信仰・不信仰）は行動に現れる
主を愛するか、主に従うか、どのように感謝を現して仕えるか

(5)主の喜ばれるささげもの（奉仕）は信仰に基づくもの
できる限り精一杯に、惜しげなく

(6)主の喜ばれないもの＝偽善的な思いや惜しむ気持ちを伴ったささげもの

(7)闇から光へ、偶像から真の神へ、死からいのちに移された者として、なお聖化の
歩みを力強く、主への愛と信仰のゆえに進んで行こう

これから、主が備えてくださった聖餐にあづかります